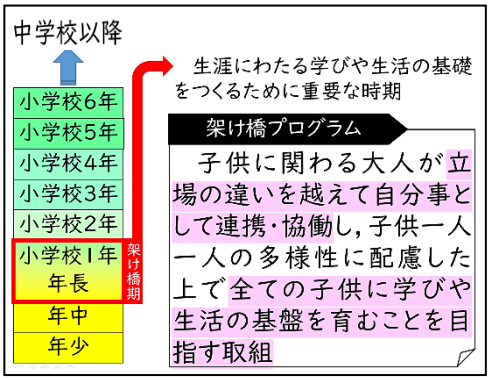
１ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るために

（１）なぜ円滑な接続が重要なのか



幼児期後半から小学校入学までの「５歳児から小学１年生までの２年間」は，生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために大変重要な時期です。

この重要な２年間である「架け橋期」において，子供に関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し，この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り，一人一人の多様性に配慮した上で，全ての子供に学びや生活の基盤を育むことができるようにすることを目指すためには，幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続が欠かせません。

（２）「交流」「連携」からその先の「接続」へ

「接続」とは，どのようなことなのでしょうか。そのことを「交流」「連携」との違いから考えてみましょう。

ホップ

交流

人と人が時と場を共有し，一緒に活動すること（子供同士，教員同士の行事・保育・授業への参加等）

ステップ

連携

組織同士，人と人が相互理解を深め，目的を共にして物事を行うこと（年間指導計画に基づいた互恵性のある交流や保育者と教員の意見交換等）

ジャンプ

接続

内容のつながり。幼児教育と小学校教育の互いの目標や内容，実践方法をつなぐこと。「幼児期の教育」と「小学校の教育」のつながりを大切にした教育

はじめは，連携・接続の基盤づくりである「交流」からスタートしましょう。その後は，「連携」そして最終的には「接続」へと移行しましょう！

（３）幼児教育と小学校教育の接続が生み出すメリット

幼児教育と小学校教育の円滑な接続は，子供や保護者，幼児教育施設や小学校にとって次のようなメリット（一例）があります。

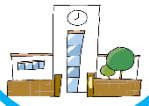
子供にとって

- 安心して学校生活をスタートさせることができる。
- 安心して生活することができれば，自分のもっている力を発揮することにつながる。
- 6年間の学びの基礎をつくることができる。

保護者にとって

- 学校生活への不安が解消され，保護者は安心して子供を学校に送り出すことができる。
- 学校と保護者の信頼関係を築くことにつながる。

学校にとって



- 幼児期に子供が経験していることが，小学校教育にどのようにつながるかイメージできる。
- 幼児期から児童期への発達の流れの理解につながる。
- これまでの児童観，授業観を見直すことで，授業改善につながる。

２　幼児期の学びから児童期の学びへ

（１）幼児期の学び

幼児期は，幼児が自発的・主体的に人やものと関わりながら，遊びを通して必要な能力や態度などを獲得していく時期です。そのため，幼児教育では，「遊びを通した学び」を大切にしています。ただ自由に遊ばせるのではなく，幼児一人一人が自ら興味や関心をもって，遊びに夢中になる中で試行錯誤しながら，様々な経験を重ねていくことを大切にしています。

―― ものを転がす遊び ――

―― ものを転がす遊びを通して育まれる資質・能力の例 ――

- うまく転がしたいと思い、様々な斜度や素材で試してみる
- 友達の転がす様子をよく見たり、転がし方のアイデアを出し合ったりする
- 何度も試しながら、転がる仕組みに気付く
- 発見したうまく転がる方法を他の友達に伝える　など

幼児教育と小学校教育の円滑な接続のための参考資料（文部科学省）

（２）学びの芽生えから自覚的な学びへ

幼児期から児童期にかけての時期は，「学びの芽生え」から次第に，「自覚的な学び」へと発展していく時期のため，学びの芽生えと自覚的な学びの両者の調和のとれた教育を展開することが必要です。

幼児教育においては，調べる，比べる，尋ねる，協同するなどの様々な手法を組み合わせて楽しみながら課題を見いだし解決する取組を通じて，学びの芽生えから自覚的に学ぶ意識へとつながっていくような活動を展開することが求められます。

一方，小学校教育においては，自覚的な学びの確立を図るとともに，楽しいことや好きなことに没頭する中で生じた驚きや発見を大切にし，学ぶ意欲を育てる活動を取り入れることが大切です。

幼児期に体験した無自覚な学び

児童期における自覚的な学び

コラム

幼児教育と小学校教育の特徴について

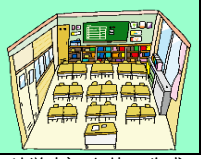
幼児教育は，遊びを中心として，環境を通して行われます。

小学校教育は，教科ごとの学習が中心で，学ぶべき到達目標があります。時間割や日課表，指導計画等を基に計画的に学習が進められます。

幼児教育と小学校教育では，それぞれの発達の特性から，教育課程の編成や教育方法等に違いがあります。

まず，幼児教育と小学校教育の違いを理解することが重要です。

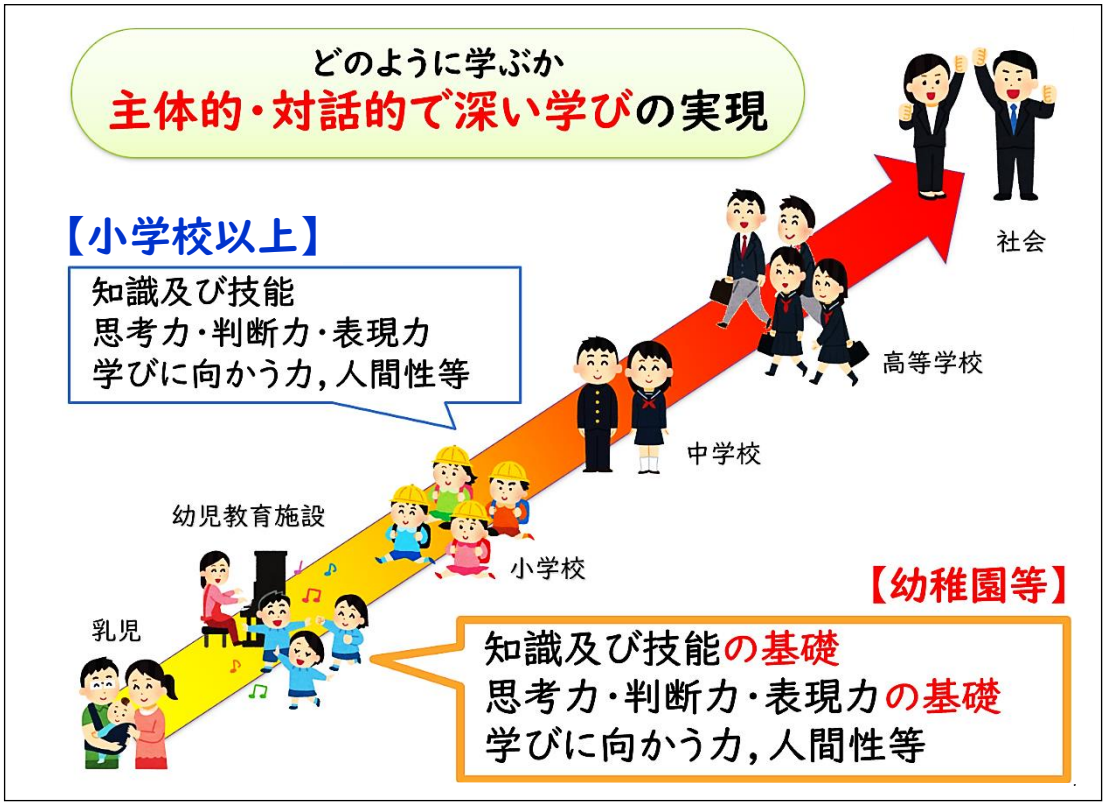
また，幼保小の連携・接続をする際，一方が他方に合わせるものではないことに留意しましょう。（次頁図参照）

	幼児教育	小学校教育
教育の目標	「感じる」「気付く」「考える」「工夫する」「興味をもつ」「関わる」等の**経験を重視**	「～ができるようになる」「～が分かるようになる」等の**目標への到達度を重視**
教育の方法等	**遊びを通した**総合的な指導	各教科等の目標・内容に沿って選択された**教材による授業**
要領・指針	（幼稚園教育要領等） **５つの領域**からなる **「ねらい」と「内容」** 	（小学校学習指導要領） **各教科等**における **目標及び内容** 

幼児教育と小学校教育の円滑な接続のための参考資料～幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？～（文部科学省）を基に作成

3　幼児期から児童期へ～子供の姿から～

（１）幼児期から高等学校教育まで

「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「（小学校以上の）学習指導要領」全てにおいて，育みたい資質・能力が「知識及び技能（の基礎）」「思考力・判断力・表現力等（の基礎）」「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱に整理されました。

校種を問わず，幼児教育から高等学校教育まで，共通するこの資質・能力の育成を目指すことがうたわれました。